

政策シート

2025年度	(管理番号)					担当課名
	分野	基本政策		政策		博物館
	06	01	01	05	01	

政策
多くの人が歴史に接する機会の創出

政策の内容

博物館資料の適切な収集・管理・活用に努め、台帳のデジタル化を推進するとともに、地域の歴史や文化についての調査研究を進め、展示、講座、体験学習等の開催により、市民が博物館で学ぶ機会を提供します。市民の博物館活動への参画を推進し、地域や学校等との連携を図るとともに、博物館や蜷塚遺跡、伊場遺跡の魅力を高めます。

生活満足度に関する指標(個別指標)

指標名	質問文	基準値 2024年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	2029 年度
歴史文化への愛着	あなたの暮らしている地域の歴史文化に愛着や誇りを感じますか。	2.89	2.9				

※総合計画基本計画に係る市民意識調査(アンケート)の結果

現状・課題

台帳のデジタル化は重複や誤記、表現の不統一などが多いため、本館分から改善を図っている。
常設展示は定期的な展示資料の更新を行っているものの、多様性への対応が不足している。
体験学習は、定期的な開催ではないこと、内容のマンネリ化が課題である。
学校の学習内容に即した見学・体験プログラムを用意し、校外学習を受け入れることができていない。
博物館ボランティアは、ボランティア説明会等で新規メンバーを募っているものの、参加者の固定化が課題である。
地域でのイベント等の開催は要望が増えつつあるが、促進を図るルールが明確になっていない。

政策コストの状況(千円)	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
予算	207,998				
決算	149,501				

※「①事業活動(アクティビティ)」の予算・決算の合計

人工	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
正規職員	8.1				
会計年度任用職員	5.5				
暫定再任用職員(31時間勤務)	1.0				
暫定再任用職員(26時間勤務)	0.0				

①事業活動(アクティビティ)

事業名	事業内容	2025年度 予算 (千円)
		2025年度 決算 (千円)
博物館運営事業	博物館、分館の管理・運営 博物館施設を適切に維持管理する 各種案内、リーフレット、チラシの作成、SNS更新により博物館、分館の活動を広報する 博物館リニューアルに向けた調査を進める	100,366
		60,488
遺跡公園運営事業	蜷塚公園、伊場遺跡公園の維持管理・整備 蜷塚公園及び伊場遺跡公園の維持管理・整備工事を行い、学び憩える歴史公園としての機能を維持し、貴重な歴史的文化遺産の保護と活用を図る	78,688
		63,646
常設展・テーマ展開催事業	博物館での常設展・テーマ展の開催 博物館資料を実際に見ていただく機会を創出し、地域の歴史文化に対する理解・関心を深めてもらう 分館での企画展・巡回展の開催 地域の独自文化を紹介し、博物館群が所有する歴史資料を展示する	1,172
		573
特別展開催事業	博物館での特別展の開催 展示名 「伊場遺跡群と弥生時代後期の文化」 会 期 令和7年11月22日(土)～令和8年1月18日(日) 内 容 伊場遺跡群出土品(弥生時代の遺物)が重要文化財に指定されたことを記念して開催。 伊場遺跡群出土品をはじめ、市内外の弥生時代後期を代表する重要な資料を展示。	9,467
		8,986
講座・体験館等開催事業	校外学習の受け入れ 主に小3、小6の学習内容に合わせ、博物館資料の解説や体験プログラムを実施する 講座、体験学習におけるボランティアの参画 校外学習時や体験学習等の際には、ボランティアの参画を募って事業の補助を依頼する	2,385
		1,801
おでかけミュージアム開催事業	市内学校での移動博物館の実施 市内の学校等に出向き、展示や講座、体験学習を行う	893
		600
資料調査収集事業	博物館資料の収集・保管 収蔵庫の状況を考慮しながら、適切に資料を収集し、安定した環境での保管を図る 浜松市域の歴史に関する調査・研究 収蔵資料を中心に調査・研究を進め、その成果を公開・活用する	10,414
		9,495
電子データ作成公開事業	博物館収蔵品台帳のデジタル化 博物館収蔵資料を一体的、効率的に管理するため、収蔵品デジタル台帳を整備し、一部をインターネットで公開する	4,613
		3,912

※予算・決算は各事業に係る経費を計上

②活動(アウトプット)指標

指標名	指標の定義	設定理由		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	2029 年度
常設展の更新回数(回)	常設展の部分的な展示更新の回数(期間限定の展示を含む)	展示の入れ替えにより、観覧者の増が見込める。	目標値	-	3	4	4	4	5
			実績値	6	4				
			達成率	-	133%				
特別展・テーマ展の開催回数(回)	特別展、テーマ展、小展示の開催回数(スポット展示や外部での展示は含まない)	博物館の活動・研究成果を周知するとともに観覧者の増が見込める。	目標値	-	7	7	7	7	7
			実績値	8	8				
			達成率	-	114%				
分館における企画展開催件数(件)	巡回展や企画展のほか、各所管部署や指定管理者主体の展示も含む	分館の観覧者の増が見込める。	目標値	-	10	10	10	10	10
			実績値	11	15				
			達成率	-	150%				
収蔵品台帳のデジタル化件数(件)(累計)	年度末時点のデジタル台帳登録件数	計画的にデジタル台帳化をすすめる、資料の管理体制を整えていく。	目標値	-	84,000	85,000	85,000	85,000	85,000
			実績値	82680	83280				
			達成率	-	99%				
教師向け研修実施回数(回)	主に社会科教師に向けた研修会の開催回数	博物館の展示・活動内容について研修を行うことで、移動博物館、教材貸出件数の増が見込める。	目標値	-	1	1	1	1	1
			実績値	1	1				
			達成率	-	100%				
ボランティア養成講座実施回数(回)	養成講座を実施した回数	市民の博物館活動への参画を推進する	目標値	-	6	6	7	7	7
			実績値	4	4				
			達成率	-	67%				

※達成率は該当年度の目標値に対する実績値から算出する。

③短期成果(アウトカム)指標

指標名	指標の定義	設定理由		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	2029 年度
SNSフォロワー数 (人)	X、Instagramの年度 末時点のフォロワー数	フォロワー数の増に、博物館の ファンを増やし、観覧者やイベン ト参加者の増を見込む。	目標値	-	3,800	4,000	4,200	4,400	4,600
			実績値	3,269	4,039				
			達成率	-	106%				
博物館(本館)の 観覧者数(人)	常設展、特別展、テーマ 展などの観覧者数	多くの方に博物館の活動を知っ てもらう	目標値	-	33,000	35,000	37,000	39,000	41,000
			実績値	25,413	26,179				
			達成率	-	79%				
特別展・テーマ展 の平均満足度 (点)	アンケート(0点～10点) の平均値。展示毎に算 出し、その平均とする。	期間中は毎回アンケートを取っ ており、観覧者のニーズに合致 していたかの比較ができると思 われる	目標値	-	7.7	7.7	7.8	7.8	7.9
			実績値	8.1	7.8				
			達成率	-	101%				
分館の観覧者数 (人)	5館合計	地域の特性を生かした展示によ り、地域内外からの観覧者の増 加を見込む	目標値	-	22,000	23,000	24,000	25,000	26,000
			実績値	9,129	20,941				
			達成率	-	95%				
レファレンス対応 数(件)	来館、メール、電話等に よる件数の合計	市民の歴史学習の拠り所となっ ているかを把握することができる	目標値	-	70	80	80	90	90
			実績値	61	71				
			達成率	-	101%				
教材貸出件数 (件)	学校等への教材用資料 や体験学習用具の貸出 件数	学習の一環として、本物の資料 に触れる機会を創出する。校外 学習に來られない学校への ニーズにも対応できる	目標値	-	100	100	100	110	110
			実績値	86	85				
			達成率	-	85%				
博物館ボランティ アの延べ活動人 数(人)	ボランティアの延べ活動 人数(研修を除く)	市民の博物館活動への参画を 推進する	目標値	-	380	400	400	420	420
			実績値	348	368				
			達成率	-	97%				

※達成率は該当年度の目標値に対する実績値から算出する。

④長期成果(アウトカム)指標

指標名	基本計画 指標	指標の定義		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	2029 年度	目標値 2034 年度
博物館の年間利用者数(人)		本館(常設展、特別展等)、 分館、校外学習などすべて を含んだ博物館利用者数	実績値	42,846	54,741					141,000
			達成率	30.4%	39%					
学校移動博物館、校外学習 等受入件数(件)		それぞれの件数の合計	実績値	107	98					120
			達成率	89%	82%					

※達成率は2034年度の目標値に対する実績値から算出する。

⑤目的:10年後(2034年)の理想の姿

誰もが文化、芸術、歴史の魅力に触れ、学び、楽しみ、新たな文化が創出されている。
多様な文化、芸術、歴史の活動を担う人材が育ち、活躍している。

【2025年度の評価】

「①事業活動(アクティビティ)」の実施内容と事業改善(2026年度記載)

事業名	実施内容	事業改善の内容や今後の方向性
博物館運営事業	・博物館、市民ミュージアム浜北、舞阪郷土資料館、姫街道と銅鐸の歴史民俗資料館、春野歴史民俗資料館、水窪民俗資料館、雄踏郷土資料保存庫、旧龍山郷土文化保存伝習施設の適切な維持管理に努めた。 ・市民ミュージアム浜北について、展示内容の更新等を行い、浜北文化センター大規模改修後の再開館に合わせ、リニューアルオープンした。	計画的に施設の改修・修繕を行うとともに、新たに収蔵庫として活用する旧平口幼稚園収蔵庫の適切な維持管理に努める。博物館リニューアルについては、引き続き類似施設の調査、展示手法の検討を行う。
遺跡公園運営事業	・蜷塚公園、伊場遺跡公園の適切な維持管理に努めた。 ・史跡蜷塚遺跡再整備事業は、前年度策定した整備基本設計に基づき整備実施設計を策定するとともに、植栽伐採、工作物撤去、石碑移設等の工事を行った。また、別館・第4収蔵庫の解体に先立ち、石綿調査、施設内の資料の移設、不用品の処分を行った。	史跡蜷塚遺跡再整備事業は、第1期工事を計画通り2027年度に完了させるため、国・県等の関係機関と密に連携して進めていく。
常設展・テーマ展開催事業	・常設展は、部分的な更新を行い、市域の歴史文化を広く紹介した。 ・特別展1回、テーマ展1回、その他小展示等を開催し、市外の重要な資料や多様な収蔵品を実際に観覧していただく機会を創出した。 ・分館の展示は、地域の担当者や指定管理者等と博物館が連携し、各地域の独自の歴史文化の特色を紹介した。	引き続き、計画的な常設展の更新、調査研究成果に基づくテーマ展、地域性の高い分館展示を行っていく。観覧者を増やすために内容のみならず効果的な広報を行っていく。
特別展開催事業	・特別展「伊場遺跡群と弥生時代後期の文化」を開催した。博物館収蔵品で、重要文化財に指定された伊場遺跡群出土品を中心に、市内の弥生時代の遺跡出土品や全国各地から借用した弥生時代後期の代表的な資料を展示した。観覧者には弥生時代の社会や文化の様相とともに、伊場遺跡群出土品の重要性を伝えることができた。	本来特別展は毎年度1回開催していたが、資料管理業務への重点的な予算と人の配分により、近年は数年に1度の開催に留まる。今後は数年単位の計画に基づき効果的に開催していく。
講座・体験館等開催事業	・講座は、博物館資料を活用した内容で開催したほか、市内の史跡等に出向いての見学会や講座、ワークショップを開催した。 ・体験館は、学校の長期休暇期間に子どもを主対象とした事業を実施した。 ・校外学習の受け入れは、主に小3、小6の学習内容に合わせ、展示や蜷塚公園の見学や火おこし等の体験学習を実施した。	講座は展示内容や調査研究成果を踏まえて行い、体験館は子どもが歴史に親しみを抱くように行っていく。校外学習は学校との密な連携により、学習効果を高める方策を検討する。
おでかけミュージアム開催事業	・出張展示や講師派遣は、市内の団体等の依頼に応じて行った。 ・移動博物館は、市内の学校に出向き、展示や講座、体験学習を行った。 ・教材の貸出は、市内の学校等の依頼に応じて行った。	移動博物館や教材貸出は、学校のニーズを把握しながら推進する。出張展示や講師派遣は博物館の認知度向上も踏まえて積極的に推進する。
資料調査収集事業	・資料の収集は、収蔵庫の逼迫状況を考慮しつつも、後世へ歴史資源を継承するため、必要性を慎重に判断しながら実施した。 ・資料の管理は、安定した環境で保管するため収蔵環境の維持や、資料の整理、台帳の見直し等を行った。 ・調査研究は、収蔵資料を中心に成果の活用を見据えて計画的に実施した。	資料の収集や管理は将来的な収蔵施設のあり方も視野に入れながら推進していく。調査研究は博物館事業の根幹であるため、他の業務に圧迫されないよう継続的かつ計画的に推進する。
電子データ作成公開事業	・収蔵資料台帳のデジタル化は、資料情報のインターネット上での公開を見据えて分館等を含めた基礎情報の整備を行うとともに、既存情報に抜本的な見直しを要するものが多いことから、修正や追加の作業を継続的に実施した。 ・収蔵している画像や映像、音声等について、紙やフィルム、テープ等のアナログの記録媒体で保管されているもののデジタルデータ化を進めた。	適正な資料台帳のデジタル化のため、引き続き基礎情報の整備や内容の修正、追加を継続的に行う。また、アナログデータのデジタル化も継続的にを行い、情報の保存と公開を推進する。

「②活動(アウトプット)指標」の見直しの要否(2026年度記載)

指標見直しの要否	否

「③短期成果(アウトカム)指標」の見直しの要否(2026年度記載)

指標見直しの要否	否
ただし、教材貸出件数の目標値は、学校数、学級数の減少が進んでいるため、その推移を踏まえて近い時期の見直しが必要である。	

2025年度の政策の評価と2026年度以降の取組の方向性(2026年度記載)

博物館運営事業

博物館本館・分館の適切な維持管理に努めた。2026年度も計画的な施設改修と適切な管理を進めるとともに、博物館リニューアルについては基本計画の策定に向けて、引き続き類似施設の調査と展示手法の検討を進めていく。

遺跡公園運営事業

各公園の適切な維持管理に努めた。史跡蜷塚遺跡再整備事業は計画どおりの工事を行い、2027年度の第1期工事完了に向けた基盤が整備された。今後も国・県との連携を一層密にし、スケジュール管理を行うことが重要である。

常設展・テーマ展開催事業、特別展開催事業

常設展の部分更新と特別展・テーマ展の開催により、市域の歴史文化を効果的に発信することができた。一方、特別展が資料管理業務の制約により数年に1度の開催に縮小している上、観覧者数に関する指標が目標に未達となっている課題がある。2026年度以降は、数年単位の計画に基づき効果的な開催を目指すとともに、広報強化等により観覧者増加を図る必要がある。

講座・体験館等開催事業、おでかけミュージアム開催事業

講座・体験館・校外学習受け入れにより、児童を含む幅広い市民に学習機会を提供することができた。2026年度は学校との密な連携により学習効果を高める工夫を進めるとともに、移動博物館・教材貸出について学校ニーズを把握しながら推進し、博物館の認知度向上を図りつつ、積極的に取り組む。

資料調査収集事業

資料収集・管理・調査研究を計画的に実施したが、調査研究が他業務に圧迫される課題がある。資料収集・管理については、将来的な収蔵施設のあり方を視野に入れて取り組む必要がある。調査研究については、継続的かつ安定的な推進体制を構築していく。

電子データ作成公開事業

当初の予定どおり、収蔵資料台帳のデジタル化とアナログデータの電子化に取り組んだ。引き続き、基礎情報の修正・追加作業と電子化を推進し、情報公開と活用促進を進めていく。

長期成果(アウトカム)指標「博物館の年間利用者数(人)」の見直し理由 ※2026年度実施計画から見直し

令和3年度から令和7年度までの5年間における当館の年間利用者数の平均は約6万5千人。

近年は年間利用者数が減少傾向にあるため、実績により適切な目標値へ下方修正を行う。

※減少傾向の要因として、少子化に伴う参加人数の減少と博物館の事業内容及び受入体制の見直しが挙げられる。

※令和7年度の年間利用者数:54,741人